みんなのスペース

わたしのゆめ

大きくなったらママのような床屋さんになって、みんなの髪をきれいに切ってあげたいな。

かとう ゆうき ちゃん
（大浦保育園・５歳）

投書

どんなことでも結構です。どしどしお寄せください。

みんなで交通事故防止を

10月27日～11月5日まで全国一斉に「夜間・薄暮時の交通事故防止県民運動」が行われています。この運動に先立ち10月19日、川井村で宮古地域交通安全大会が開かれ、本町からも多数の方々が参加しました。長年の交通安全活動の功績に対し、表彰を受けられた本町3人の方々に心からお祝い申し上げます。

さて、本運動の一環として山田町交通安全母の会と宮古地区交通安全協会山田支会などでは、10月25日に船越地区、10月27日には織笠地区で高齢者宅を訪問し、夜光反射材などを配りました。夕暮れが早くなってきたので、歩行者は外出時に反射材を着用し、運転者は夕暮れ時のライト早め点灯を励行して、歩行者も運転者も自分の位置と存在を示し合って、交通事故防止に努めましょう。

高齢者や子供など交通弱者を守ることはもちろんのこと、小中学生から高校生、大人までみんなが道路を横断するときは止まってしっかり確認し、「自分の安全は自分で」を合言葉に交通事故防止を誓い合い、県民運動を無事終えたいものです。

西舘隆（船越・？歳）

歴史ある古里を世界的に

私は昔から小説が好きで、若い時は三島由紀夫、太宰治、司馬遼太郎をよく読んだ。

時は明治2年3月25日、箱館（函館）に立てこもる榎本武揚らの軍艦「回天」と新政府の軍艦「甲鉄」など8隻が宮古湾で激突した。回天には土方蔵三、新政府軍の「春日」には後の元帥・東郷平八郎が乗り込んでいた。土方歳三らが乗った旧幕府軍は宮古港に停泊していた新政府軍に単騎で突撃した。甲鉄の土手っ腹に乗り上げた回天から乗り移り、白兵戦では善戦したが、新政府軍の新兵器ガットリング砲の前に劣勢を余儀なくされ、退却のやむなきに至った。

この時の戦死者は幕府軍17名、新政府軍11名で、日本近代海戦史上初の戦いといわれている。これを記念して、東郷の筆による「宮古港戦績碑」が建てられました。また海戦の記念碑は、浄土ヶ浜お台場入り口にも建てられた。いやあ驚きです。東郷平八郎はこの海戦の際は三等士官として乗り込んでいた。ここから見物していたわれわれ同郷の先人たちもいたことでしょう。碑の下方に砲弾をイメージした丸い石が飾ってあるが、書は鈴木善幸さんです。昭和43年に明治百年を記念して建立とある。

こんな歴史ある古里を世界的に重要な場所に育てようと皆で考えましょう。海藻からエタノールを作るという研究がされ、カキ、ホタテの廃棄貝は粉状にしてプラズマ焼成するとエイズなどの治療に使えるという。人類に役立つなら政府も援助します。頑張りましょう。

ふる里山田同郷の会　湊武美

花壇作りの協力者に感謝

過日、町内花いっぱい運動コンクールに参加致しました。荒川小学校より轟木小学校までの各団体19カ所の花壇を審査しました。審査はデザイン、生育状況、工夫、努力、地域の連携の5項目で採点します。どの花壇にも真っ赤なサルビア、ブルーサルビア、マリーゴールドなど整列よく、夏の猛暑にも台風にも負けず美しく咲く花の一本一本をいとおしく思いました。

夏の水やりや除草、追肥など手入れに協力してくださった地域の方々のご苦労を思い、すべてに高得点をあげたいと思いました。賞は別として花壇作りではぐくまれる地域の触れ合いや親子の触れ合いなど、大切なことを学びました。汗を流しご協力くださいました方々大変ご苦労さまでした。

佐藤豊子（境田町・？歳）

イラスト

ひと朝を命いっぱい咲きほこる
名残り身にしむあさがおの花
菊地サカヱ（織笠・72歳）

鳥帽子岳
重いリュックを背負いして
足も重いが心軽やか
大町テイ子（大沢・？歳）

ハイハイヤ
つかまりだちのはじまりし
あこの機嫌の声ももちどり
菊地孝進（船越・85歳）

夏惜しみ皆既月食仰ぎみゆ
初秋の夜は神秘的なり
大川ヒメ子（大沢・62歳）

秋祭り守り給えよおらが町
佐藤兼男（荒川・？歳）

投稿には必ず住所、氏名を

「みんなのスペース」コーナーへの多数の投稿ありがとうございます。町では、投書やイラスト、川柳などスペースの許す限り掲載していますが、中には住所と氏名がなく、掲載できないものがあります。差出人不明の投稿は掲載をお断りしていますので、ペンネーム、匿名での掲載を希望する場合でも、必ず住所と氏名は記入してください。

◆**問い合わせ**　役場総務課情報管理担当（☎82－3111内線421）へどうぞ。

むやみにハチを殺さないで

今年もスズメバチによる被害がでました。町内では9月に田の浜の山林で2人がオオスズメバチに刺され、救急車が出動しました。スズメバチが人を襲うのは巣を守るためです。アカバチで巣から3㍍以内、オオスズメバチは巣から5㍍以内に人が近づいたら襲います。特にオオスズメバチは草の茂った地中に巣を作るので、見つけにくいことが被害を大きくしています。世界最大のオオスズメバチは体長6㌢、肉食性です。スズメバチによる事故は気温の高い8、9、10月がピークです。霜が降りる11月下旬には働きバチは死に、女王バチは越冬のため朽木のへこみなどに潜り込んで、使い捨ての巣は空になります。一方、野生のミツバチの巣は3、4年は使われます。巣は働きバチが分泌するろうと唾液で作られます。花の蜜を集め、花粉で子育てしますから巣に近づいて眺めていても刺されることはありません。巣を壊したり、いきなりハチの体に触れば別です。ミツバチは自分の生命と引き換えに刺します。命と引き換えですから、めったなことでは刺しません。「ハチには針がある。刺さない保証はないだろう。だから退治しておくに限る」といった調子で、ハチを見掛けると安易に殺してはいませんか。スズメバチもミツバチも巣から離れた所にいるハチはすべて働きバチです。狩りをしたり花粉を集めたり、それぞれ仕事中なのです。人が近づいたからといって襲いかかることはありません。あなたにまといつくように飛んだり、胸や肩に止まったりしても刺すことはありません。（あなたが）餌になる青虫や蜜を出す花のめしべではないことが分かると飛び去ります。ハチの取り調べが終わるまでジッと我慢、我慢。搭乗前のボディチェック気分ですね。

ところで、通学路に立つコンクリート電柱のボルト穴から出入りしている黒っぽい小さなハチを見掛けることがありますね。あれは野生のニホンミツバチです。ときに黒くべっとりと電柱に群がっていることもあります。近寄ってみると、盛んに花粉を運んでいます。かわいい働き者です。山の巨木が切られ、すみかを追われたミツバチにとって、空洞のあるコンクリート電柱は大きな救いでした。野生のミツバチは、家庭の花壇や船越公園の水仙園にではなく、山の木々の間を飛び回って木の実が実るよう受粉を手伝って蜜や花粉を集めて生きています。野性のミツバチが減ったら山の実りは悪くなります。小鳥や獣は食べ物を得られず、熊は冬眠できません。野生動物がすめなくなれば、森はただのジャングルです。シカやカモシカの異常発生を見るかも知れませんが、森は荒れる一方です。電柱のミツバチをむやみに殺すことを止めて、少し離れて眺めてみてください。そういう行動を起こすことで、ミツバチが殖え始め、森の実りに回復の兆しが見え始め、徐々に、しかし確実に山の木々は勢いを取り戻します。山田町全体が見違えるように元気になることを祈ります。

池田壽和（織笠・71歳）

◆投稿規定　▷住所、氏名、年齢、電話番号を明記。ペンネーム、匿名での掲載を希望する方はその旨をさらに付け加えてください▷住所、氏名が記入されていないものは掲載しません▷営利・政治的活動を目的としたものや、特定の個人・団体をひぼう・中傷するものは掲載できません▷投書を添削することがあります。
◆あて先　〒028－1392（住所不要）山田町役場総務課情報管理担当へ。